

会議議事録

会議名	平成 29 年度第 2 回医療事務分野教育課程編成委員会
開催日時	平成 30 年 2 月 22 日 (木) 15:00~17:00
場所	本校 1 階会議室
出席者 (敬称略)	①企業等委員：須貝和則（国立国際医療研究センター 医事管理課長）、横堀由喜子（日本病院会学術部長）、山室 靖（東京衛生病院医事課課長）、直井智之（東大和病院事務部長）（計 4 名） ②本校委員：橋本正樹（校長）、吉川 香（医療秘書科学科長）、村山由美（医療秘書科副学科長）、黒田 潔（医療マネジメント科学科長）、菊池聖一（診療情報管理専攻科長・医師事務技術専攻科長）、三宅かおり（教務委員長）、河村和恵（医療事務教科系研究会リーダー）（計 8 名） ③事務局：川内靖美、高橋 稔（計 2 名）、（参加者合計 14 名）
欠席者	横堀由喜子（日本病院会学術部長）、宮下明久（事務局長）
配付資料	①事前送付： No. 1：平成 29 年度第 1 回医療事務分野教育課程編成委員会議事録、No. 2：平成 29 年度第 1 回委員会以降の主な経過報告、No. 3：平成 29 年度学校関係者評価報告書、No. 4：平成 29 年度主な内定先、No. 5：平成 29 年度日本病院会講演会No. 7：平成 29 年度教員研修計画・実績、No. 8：平成 29 年度授業公開実施報告書、No. 9：平成 29 年度後期授業アンケート結果報告、No.10：平成 30 年度生カリキュラム ②本日配付： No. 6：平成 29 年度の教育活動と学科運営に関する報告
委員長	橋本校長
議題等	1. 校長挨拶 橋本校長より、医療事務の仕事の高度化に伴って、医療事務職、病院事務職の方の転職サイトが活況を呈していることを先日ある大手総合病院の事務部長さんに伺った。医療事務分野においてもプロフェッショナルの異動が始まっていることを改めて実感した。来年度は 18 歳人口が減ることもあり、医療秘書科の学生募集も若干厳しくなっている。医療事務の仕事の世界の変化が学校にも伝わってきているが、教育内容を時代に適合させないと生き延びられない時代が来たのであり、数年前にこの委員会で言われてきたことが現実化している。本日は、我々学校の教職員にいろいろなご指摘等をいただく貴重な場なので、さまざまなご意見を承りたいとの挨拶が行われた。 2. 前回委員会議事録の確認（説明者：事務局高橋） 本委員会の議事録の作成方法について事務局より説明が行われた後、橋本委員長より、前回議事録（資料 1）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく確認、了承された。 3. 平成 29 年度第 1 回委員会以降の主な経過報告（説明者：橋本校長、吉川学科長、

事務局高橋)

各担当より、資料No.2、3、4に基づき報告の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

4. 医療マネジメント科 後期講演会報告 (説明者：黒田学科長)

黒田学科長より、資料No.5に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 教育活動と学科運営に関する報告 (説明者：吉川学科長、黒田学科長、菊池専攻学科長)

各担当より、資料No.6に基づき各学科の説明の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 教員研修に関する報告 (説明者：三宅教務委員長)

三宅教務委員長より、資料No.7に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 授業公開に関する報告 (説明者：三宅教務委員長)

三宅教務委員長より、資料No.8に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

8. 授業アンケートに関する報告 (説明者：事務局高橋)

事務局より、資料No.9に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

9. 次年度カリキュラムについて ((説明者：吉川学科長、黒田学科長、菊池専攻科学科長)

各担当より、資料No.10に基づき各学科の説明の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

10. 全体を通しての質問・意見・提案等を含む意見交換

議題9までの報告、説明、質疑応答が終了後、全体を通しての意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

11. 次回日程、その他 (説明者：事務局高橋)

事務局より、本委員会は年2回の開催であり、次回は7月を予定している。5月に各委員の予定をお伺いして日程調整を行う。テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

①平成30年度学科運営の説明

②平成30年度カリキュラムと教育の実施状況報告

<p>③平成 31 年度カリキュラムと教育の進め方について 最後に、橋本委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力 依頼があり、閉会した。</p>
--

以上

別紙

平成 28 年度第 2 回医療事務分野教育課程編成委員会の主な討議内容

3. 平成 29 年度第 1 回委員会以降の主な経過報告

○橋本校長、吉川学科長、事務局高橋より、担当する項目について、資料No.No.2、3、4に基づき平成 29 年度第 1 回委員会以降の経過について以下の報告が行われた。

1. 学校関係者評価関連

- ・ 11/19 平成 29 年度第 2 回学校関係者評価委員会
- ・ 12/20 平成 29 年度学校関係者評価委員会報告書の校長への提出（資料No.3）
- ・ 3/18 平成 29 年度第 3 回学校関係者評価委員会開催予定

2. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

- ・ 平成 29 年度の重点目標である年間の退学率 3.5%以下の達成に向け退学防止に取り組んでいる。

(2) 就職内定の状況

- ・ 学科運営計画に目標数値を明記して取り組んでいる。
- ・ 1 月末時点の内定状況、主な就職内定先（資料No.4）。
- ・ 1 月末時点でのインターンシップ専攻の状況。

(3) 平成 30 年度 各専攻科への進学状況

- ・ 1 月末時点での各専攻科への進学状況。

3. 学生募集関連

- ・ 1 月末時点の入学試験及び出願状況は資料の通り。

○事務局高橋より、学校関係者評価関連について以下の補足が行われた。

- ・ 職業実践専門課程には当教育課程編成委員会と、本校の自己点検・自己評価に対して項目ごとにご意見をいただく学校関係者評価委員会があり、昨年 12 月 20 日に平成 29 年度の学校関係者評価報告書（資料No.3）が校長に提出された。
- ・ この報告書も当委員会の議事録と同様に 3 月の中旬ごろにホームページに全文掲載する予定。

○吉川学科長より、退学の状況、就職内定、各専攻科への進学状況について以下の補足が行われた。

- ・ 退学の状況：平成 29 年度は医療秘書科 4 名、医療マネジメント科 5 名、診療情報管理専攻科 1 名、4 学科合計で 10 名、学校全体では 1 月末時点で 14 名（1.9%）となった。昨年に比べて 0.9 ポイントほど下回っており、目標の 3.5%以下になる状況で推移している。
- ・ 就職内定の状況：総じて好結果が出ている。インターンシップにおいて例年、職場環境になじめない学生がいたが、平成 29 年度は途中リタイアが 2 名と少ない。
- ・ 平成 30 年度各専攻科への進学状況：診療情報管理専攻科の 30 年度生は 43 名となっている。後ほど出る資料では少し数値にばらつきがあるようだが、今年度との対比では若干ふえている。医師事務技術専攻科は、30 年度は進む学生が存在しないという残念な結果になった。

○吉川学科長より、学生募集関連について以下の補足が行われた。

- ・ 医療秘書科の出願者は 125 名（前年比 81.2%）となり、かなり苦しい状況がやってきた。
- ・ 医療マネジメント科は 115 名で、前年とほぼ同じ人数である。残る入学試験は 3 月の 2 回なので、全ての学科で 365 名を目標にしていたが、厳しい状況になっている。

○橋本校長より、医師事務技術専攻科への進学について以下の補足が行われた

- ・新設の医師事務技術専攻科がゼロとなった原因として、①教職員も含めて外の変化に対して反応が遅かったこと。②就職に目がいく中でプラス1年まで思いが及ばないということがある。
- ・来年度は募集を早めるとともに、姉妹校の埼玉女子短期大学の医療事務コースを卒業する人もターゲットに入れて、将来的には外部募集も含めてやっていきたいと思っている。
- ・医師事務作業補助者の資格だけならプラス1年は不要ではないかという声が内部からも出てきたが、医師に対応する人為的なサポートに重点を置いた教育で特徴を出して、新年度に向けて頑張っていきたい。
- ・今年度在学の3名はしっかりと専門職種で就職ができ、満足度も高いということで、教育のシミュレーションはうまくできたので、次は学生募集をしっかりやる。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
<p>○医師事務作業補助者はドクターの負担軽減にかなり役に立っている。医療事務はなくなる職種のトップ3ぐらいに入っているので、医師事務となると就職先が広がるかと思う。</p> <p>○医師事務作業補助者についてはまだ医療現場が対応し切れていないので、求人面で心配なところがあるかと思うが、医師の働き方改革の土台として医師事務がどこまでサポートするかという話もあり、現場ではすごく必要になるので間もなく大きく変わってくる。</p> <p>○医師には本来の仕事をやってもらいたいという意味で、完全に医師事務作業補助者は必要なコストとして広がっていく一方、教育の現場の意識がついていかないのが現状だと思う。</p> <p>○医師事務作業補助者に限らず全国の学校を回っていると、元気のいいところは元気がいい。高校生、中学生に身につく感じをしっかりアピールして、学生も元気。この学校で勉強したいと思う取り組み、勉強の仕方、地域の巻き込みなどをしっかりやっている。</p> <p>学校だけではなく医療界全体が魅力ある就職先にならなければいけない。医師事務作業補助者も診療情報管理士も大事なのに、魅力が感じられないから若い人たちが来ない。学校として生き残っていくためには魅力をもっとアピールしなくてはいけないと思う。</p> <p>○病院側の医師事務作業補助者に対する取り組みがばらばらで、学校側もつかみにくいと思う。</p> <p>○あまり気づいていないのが会計で点数も上が</p>	<p>○ご意見として伺った。</p> <p>○実際に医師事務作業補助者をきちんと指導しているところは収益が上がっているという話を聞いた。ドクターの事務作業が楽になり、余った</p>

<p>ってきて 70 点ぐらいになっている。1つの業務例として、今までは看護師がやっていたことを医師事務作業補助者に置きかえる病院が多くなり、看護師は病棟、オペ室、入院の説明などにシフトしていく。早めに看護師のレベルまで教えていくとよいのではないか。</p>	<p>部分を患者さんに当てることで外来患者さんの数がふえているのが実情のようだ。</p>
---	--

4. 医療マネジメント科後期講演会報告

○黒田学科長より、資料No.5に基づき以下の報告が行われた。

- ・講演会の目的は、1年生に対して診療情報管理士の具体的な仕事内容について説明することと、診療情報管理専攻科に進むに当たって、その前段階であるコース選択の手がかりとすることにある。今回も横堀委員に講師をお願いして行った。
- ・学生のアンケート結果は「とても参考になった」「参考になった」で98%を占めている。
- ・今後の課題は、1年生の早い段階から断続的に診療情報管理士の仕事について伝えていくことや、今以上に管理士分野の教員が1年生と接する機会を増やして、2年生のコース選択において、2年間で卒業するのか、それとも専攻科に進んで3年間勉強するのかの選択を緻密にしてもらうことを考えている。

○説明に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

5. 教育活動と学科運営に関する報告

○各担当より、資料No.6に基づき各学科の説明が行われた。

(ア)医療秘書科

○吉川学科長より、以下の報告が行われた。

- ・教育活動は、年間計画にのっとりおおむね進行してきた。
- ・2年生には4週間の病院実習が全員に求められているが、今年は途中で心折れてしまう者がなく4週間全うできた。
- ・資格取得、検定試験については、2年生は当初の目標として掲げたものをほぼ達成している。1年生は、今年は6月の検定試験を受けずに全て11月の検定試験から開始したが、ほぼ例年と変わらない状況で3級、2級の合格が実現できた。
- ・昨年12月に医療秘書科の1年生が受験した診療報酬請求事務能力認定試験において、合格率が初めて30%を超え、31%（全国平均30.7%）となったことは非常に喜ばしいことだと思っている。秋口から検定を受けるように緩やかにしたことが、退学者を抑え、副次的に検定試験も今までよりも合格したと自画自賛をしているが、次年度でその効果を確認して、よりよい方法を講じていきたい。
- ・医師事務技術専攻科への進学者がゼロという結果になった理由（①入学後に開設されたため家族の方もその思いに至らなかった。②検定試験や資格取得を掲げていないので、学生が目標を捉えにくかった。③医師事務作業補助者の業務のイメージを膨らますことができなかつた）を踏まえて、今の1年生のご家族には学校の案内書とともに医師事務技術専攻科の募集要項を一式全員にお届けした。
- ・学生にも実際に従事されている方の話を聞いてもらい、その結果、医療秘書コースの選択につながった人数が152名のうち61名、さらに医師事務技術専攻科へ関心を寄せている者が13名、進学を希望している者が2名となり、31年度に関しては開講につながることができると感じている。

(イ) 医療マネジメント科

○黒田学科長より以下の報告が行われた

- ・新入生を中心としたオリエンテーションの一環としてフィールドワーク（遠足）を5月に実施した。
- ・検定、資格取得については、年度当初に立てた目標の確認と検証を行っている。
- ・現時点で退学率は前年度に比べて若干低下している。
- ・病院実習は、途中で打ち切り勧告を受けるような学生もなく、無事に終了した。
- ・就職状況は非常に堅調で、早い段階で内定率100%になった。
- ・早期にインターンシップに出る学生が多く、クラス内の雰囲気・モチベーションが停滞し、授業に影響が生じた。次年度以降の対策を考えていかなければならない。
- ・診療情報管理専攻科に進むことが前提の管理士コースは、複数回模擬試験を実施したことや専攻基準を一層明確にし、最終的には菊池学科長の面接を通して決めていくというやり方に変更した。
- ・多くの学生が入学してくれるのはありがたいことだが、学生が抱えている課題や問題が多様化しているので、学生に対する指導に苦勞している。学科内だけでなく、他部署や兼任の先生方と協力して取り組んでいかなければならないと思っている。

(ウ) 診療情報管理専攻科、医師事務技術専攻科

○菊池専攻科長より以下の報告が行われた。

- ・DPCに関する資格取得について、医事コンピュータ技能検定試験準1級の受験生が極端に少なく、合格する者もいなかった。今後、対策講座の見直しを含めて力を入れていく必要がある。
- ・資格試験、認定試験の取得は目標の一つには挙げているが、現場に出たときに役に立つレベルにはなっていないと思っている。そこは理想どおりには進んでいない。
- ・試験対策としてスマホ対応のアプリをつくっていただいたので、結果を楽しみにしている。
- ・就職に関しては、大学病院にこだわりのあった1名を除いて、ほとんどの学生が早い段階で決まっていた。
- ・退学者1名は、音楽関係の仕事をしたいということで進路変更をした。
- ・学生募集に関しては、前年度と規定を変えて小テストを課し、点数が上がらない学生が辞退したことなどから、1年生43名という結果になった。

(エ) 医師事務技術専攻科

○菊池専攻科長より以下の報告が行われた。

- ・まだ就職するのは早いという意識の学生が専攻科に来たが、実際に学んでいくうちに、医師事務作業補助者の仕事はやりがいがあるというふうに変わってきた。常勤の教員だけでなく、外部の、特に実習病院の講師に細かい指導をしていただいたことも効いていると思う。3名とも最終的には医師事務作業補助者で就職が決まった。
- ・クラス運営に関しては、3名しかいなかったのと、担当が熱心で自分の教科以外の授業も一生懸命フォローしていた。
- ・医師事務技術専攻科の新年度の学生がゼロになったのは残念としか言いようがない。内部の協力体制や我々の姿勢に甘さがあったのではないかと思う。平成31年度は30名以上確保できるように進めてほしい。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
○診療報酬請求事務能力検定の合格率 31%はす	○ご意見として伺った。

<p>ばらしいことだと思う。</p> <p>医師事務作業補助体制加算を取るには、病院側の教育や実習の証明が必要になる。医療秘書科は32時間研修に該当するものを全部組み合わせて証明書を出せばいいのではないかと思う。32時間研修は実は、その内容と中身を表記して持たせれば通用するで、修了証を発行してそれに該当する勉強をしていることを証明することは一つのあり方だと思う。</p> <p>医療マネジメント科は、子供が減っている中でこれだけ伸ばしているのはすばらしい。診療情報管理専攻科は、学修の時間を指標にしていればと思う。</p> <p>○今、日本病院会自体がウェブ化を考えていて、教育教材もウェブ発信していく方向にある。ただし、教科書をやめると学校も困るということで、教材をどう残すかが今後3年～5年の課題になっている。診療情報管理専攻科のほうは日本病院会とおそろいの教科書があるが、医師事務技術専攻科のほうはどうされているのか。</p> <p>○教科書がなくても立派にやられているので、診療情報管理のほうもそういう形をとっても大丈夫かもしれない。ご意見いただければと思う。</p> <p>○専門の先生を学校が集められなくなる可能性もあるので、こちらでコンテンツをつくってウェブで配信して学校に利用してもらえそうな仕組みを考え中である。</p>	<p>○教科書はない。実際のカルテをもとにしたり、プリントを用意してやっている。</p> <p>○学生は、用語は覚えているが、医学知識とのつながりがないので理解が中途半端になっている。その問題に対する答えは用意できても理解はできていないということがある。</p>
--	---

6. 教員研修に関する報告

- 三宅教務委員長より、資料No.7に基づき以下の説明が行われた。
- ・平成29年度の外部研修の受講は2月末現在で昨年度の1.37倍に増加。2年前との比較では2.5倍になる。研修参加のための授業の移動が許可されたことと外部研修受講費用の補助を開始したことが要因として考えられる。
 - ・申込みを先着順としたことや研修案内をタイムカード横に常時アップするなどの工夫により、刻々と成果は上がっていると思う。
 - ・外部の研修で得た情報を内部で共有するシステムを今後構築していきたい。
 - ・校内研修は、プレゼンテーション研修に続き、来週2月27日にアサーティブ研修を予定している。相手も尊重しつつ自分が思っていることや考えていることを相手に伝える技術を学び、職場のコミュニケーションの活性化及び学生とのコミュニケーションに生かしていく。
- 説明に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

7. 授業公開に関する報告

○三宅教務委員長より、資料No.8に基づき以下の説明が行われた。

- ・平成 29 年度の参観者数は、前年比で 97%と微減になっているが、28 年度は前年比 188%とほぼ 2 倍になっているので、今年度も高い参観者数を維持できたと考えている。
- ・一人当たりの授業参観数は 2.6（昨年度は 2.7）で、維持できたと考えている。
- ・平成 28 年度は 1 人だった非常勤教員の公開が、今年度は 5 名で 6 授業となった。参観者も多く、普段見られないものに対する興味の深さの現れかと思う。
- ・次年度は公開授業比率の維持と一人当たりの参観授業数のアップ、さらに看護科の教員の参観授業数と事務局の参観数の増加を目標にしている。
- ・アンケートの結果には本校の教員がいかにか真摯に向き合っているかが現れている。

○説明に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

8. 授業アンケートに関する報告

○事務局高橋より、資料No.9に基づき以下の説明が行われた。

- ・平成 29 年度は授業アンケートの 3 年ごとの見直しの年に当たり、仕組みや質問項目が前年度と若干異なっている。
- ・例年のことだが、後期は半数近くの学生が内定先でのインターンシップを専攻する関係もあって、2 年生の回答比率は低い傾向になっている。1 年生は「とてもそう思う」が 6 割を超えるが、2 年生は 4 割程度である。
- ・過去 3 年の推移や今回のデータを踏まえて、来年度の各学科の運営計画に反映していく。
- ・常勤教員には、アンケート結果に対して、考え方や改善方法を学科長に提出する仕組みも今年度からスタートしている。

○説明に対して企業等委員からの質問・意見はなかった。

9. 次年度カリキュラムについて

○各担当より、資料No.10に基づき各学科の説明が行われた。

(ア) 医療秘書科

○吉川学科長より以下の報告が行われた。

- ・平成 29 年度の取り組みや検定試験の結果等についても 1 年確認したいという思いがあり、特段大きな変更点はない。
- ・平成 29 年度生の 2 年次後期に始まる「介護保険の基礎」を全員が履修する。
- ・2 年次に設定している 7 コースは 30 年度生が最後になる。31 年度からは歯科医療事務コースと医療ビジネスコースはなくなり、5 コースの展開になる予定。

(イ) 医療マネジメント科

○黒田学科長より以下の報告が行われた。

- ・日本病院会の新カリキュラムに対応させて管理士科目の若干の改変を行った。
- ・「パソコン演習」、「データベース演習」の内容のリニューアルを図った。
- ・社会人化教育には 2 年前ぐらいから力を入れてきているが、特にマナー・接遇、コミュニケーション力、プレゼン力を高めるため、「社会人基礎」、「マナーホスピタリティ」の内容を充実させた。

- ・「キャリアデザイン」は管理士コースと医事スペシャリストコース別に2本立てにした。
- ・コミュニケーション技術を身につける科目を医事スペシャリストコースのほうに置いた。

(ウ) 診療情報管理専攻科

○菊池専攻科長より以下の報告が行われた。

- ・1年やってみて特に問題がある箇所や追加すべきことは見当たらなかったのと同じ内容とした。

(エ) 医師事務技術専攻科

○菊池専攻科長より以下の報告が行われた。

- ・DPCへの対策として「DPC実務」を入れた。
- ・診療情報管理士のための受験と単位に必要なものの強化、データベース関連のほか、診療報酬請求が1コマずつ前期、後期に入っている。
- ・「レセプト実務演習」は、高いレベルの内容を教えたいと思っても学生の能力にばらつきがあるため、今年度はAとBの2コースに分けたところ、担当教員から授業がやりやすいという回答をいただいた。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
<p>○先生から、介護の部分も少し授業にという話があったが、地域包括ケアシステムなどが始まってくると、介護の部分も見られるようなスタッフは非常にありがたい。</p> <p>○現場になじんで、成長していくためにもコミュニケーションは大切なスキルだということを考えてもらえればと思う。</p> <p>○データベース関係は、簡単なことでもできると病院としては助かる。授業には組み込まれていても、現場に来て全くわからないと言われてしまう。働き方改革の一つとして可能なものは機械に置きかえていく目標が立てられているので、機械を使える人が少しでも多いほうがよい。アクセスの基礎がわかれば、だんだん応用ができてくるので、十分かと思う。</p> <p>○データを使うことが多くなってきており、求められることも増えている。ソフトを買い続けると多額になるので、ちょっとしたことは自分たちで分析できる形が取ればいいかなというところがある。</p>	<p>○そういったことに対応できる知識、スキルを身につけて卒業してほしいという願望はある。学生には、変化についていくためのベースを身につけさせたいと思っている。</p> <p>○実習を通してコミュニケーションスキルが課題であることを感じている。就職活動でも、うちの学生全般の評価として、真面目できちんとしているが、おとなしいということがある。さらに力を入れていきたい。</p> <p>○医療マネジメント科の2年生は、次の4月からアクセスの操作をきちんとできるように、「パソコン演習」のⅢとⅣはシフトしたので、成果が上がればそのレベルに到達できると考えている。</p> <p>○パソコン関連科目を前年度リニューアルしたが、その成果を見ていただくのは次年度になる。少し期待できるのではないかなと思っている。</p>

10. 全体を通しての質問・意見・提案等を含む意見交換

○議題9までの報告、説明が終了後、企業等委員から全体を通しての質問・意見・提案があり、意見交換が行われた。

質問・意見等	回答等
<p>○インターンシップに行き、内定を取り消されるとか引きこもってしまうような事例はあるのか。</p> <p>○こじれることはないか。</p> <p>○勤務先でも似たような例はあり、病気を理由に来なくなったときにどう対応してあげればいいのか、採用はどうするかという話になる。</p> <p>○他の試験との競合、降雪、インフルエンザなど、受験生だけでなく運営側にも問題を生じていることから、現在2月に実施している診療情報管理士の認定試験の時期について意見を伺いたい。</p>	<p>○まれにそういうことはある。理由は学生側であったり、採用側であったり、様々なケースがある。</p> <p>○基本的には本校のキャリアサポートセンターが間に入って、慎重に進めているので、問題になることは少ない。</p> <p>○カリキュラムの設定や管理を大きく変更することになることから、学校の現状からは年内実施は難しい。</p>

○最後に橋本校長より以下のまとめの発言があった。

- ・いろいろとご意見いただきありがとうございました。世の中が変化していく中、特に今年は変化の多い年と言われており、教育現場にもいろいろ変化がある中で、対応を意識していないと乗りおくれるということがある。本日のそれぞれの意見交換を敏感に受けとめて、教育現場に反映していただきたいと思う。
- ・学校だけでできることは限られることから、変化への対応には、関連する学校、企業、業界と連携して、人材育成をともに考えていくという流れが、今まさに来ている。医療事務分野の教育も現場の方々とビビッドなお話などしながら進めていきたいと思っている。本委員会は年に2回しかないので、それ以外の機会も含めて引き続きよろしくをお願いします。

以上